

平和がいちばん

2013年12月15日
第78号
平和で豊かな枚方を
市民みんなでつくる会



「秘密保護法反対」集会・デモ 11月23日 大阪市内

自民党・公明党政権による「戦争国家」への暴走を止めよう

「秘密保護法」が強行成立しました。真実を知りたいと思う市民の活動に最高10年の懲役刑が待ち受ける弾圧法です。「秘密指定」より「情報公開」が求められ、多方面から反対や慎重審議の意見が沸き起こっていたのを無視して、自民党・公明党がゴリ押ししました。

安倍政権は原発事故では大嘘ついて汚染水対策はサボり、被災者補償は値切ること躍起です。その一方で社会の仕組みを改悪することには猪突猛進。前回は腹痛で倒れて政権を投げ出すまでのわずか11ヶ月に、「教育基本法」を改悪し、改憲のための「国民投票法」を強行成立させました。前任の小泉が「郵政選挙」で得た議席におんぶに抱っこされての横暴でした。そして今回も「数の論理」を振り回し、社会システムを根本から変えようとしています。

安倍の目標は「日本企業の海外での権益を武力で確保」することです。共存共栄、平等互惠ではなく、軍事力と経済力での支配圏の確立を狙っています。海外での武力行使を可能にする

ためには、最大の障害である平和憲法を排除しなければなりません。夏の参議院選では改憲発議の2/3議席に届かず、96条改憲は一頓挫しました。そこで「解釈改憲」や「違憲立法」で憲法を破壊していく方策を次々と打ち出すことに切りかえました。この夏の麻生副総理による「ナチスの手口で改憲を進めよ」発言が記憶に新しい。世論の抵抗が強い明文改憲は後回しにして、憲法解釈の変更や新法制定によって憲法を骨抜きにしようとする正直に語ったものです。それが「集団的自衛権」行使容認論議です。これが認められれば『国家安全保障基本法』（自民党案）の制定から「自衛隊法」の改変を経て、日本は米国の軍事作戦に呼応して地球の「裏側」へでも派兵して戦争に加担することが可能になります。

私たちが取り組んでいる市議会宛の『「集団的自衛権」容認に反対する意見書』の要請人は300名を越えました。戦争準備を進める自公政権の一つひとつ的確に反対していきましょう。運動を拡げれば「秘密保護法」の廃止も可能です。

わわわのわ

原発被災者に優しい社会は
障がい者・老人にも優しい社会

「秘密保護法」反対・反原発で市内を駆け回る

松永 勝子さん



(12月4日・樟葉駅前)

「秘密保護法は、戦前の治安維持法と同じです。自由にものが言えなくなりますよ。いまでも隠蔽や嘘の多い原発事故の現状が一層伝わりにくくなりますよ」と駅頭でマイクを握る松永さん。

彼女は、就職するまでは四国で暮らしていた。子どもの頃の生活や遊びや行事には、四季折々の自然が大きく関わっていた。ところが、福島原発事故後に原子力発電所のとてつもない危険性を知り、知れば知るほど「人と自然がダメになる」「子孫への大きな負の遺産になる」と分かり、居ても立ってもいられなくなって、多くの方に訴えはじめた。

松永さんは40年ほど教職についていた。長い教師生活で一番気になったのは障がいをもった子ども達の教育だった。枚方では「ともに学ぶ」ことを最重視し、障がいをもつ子どもも健常児とともに学ぶことで成長するとされ、学習時間や生活の場は出来る限り通常の学級(原学級)で学ぶ取り組みがあった。しかし、彼女が初めて養護担当(養担)になり原学級に入ってみると、授業中、障がいのある子どもの学習が保障されているとは言えず「このままでは子どもの成長に合わせた教育ができない」と感じたという。彼女は養担を2年した後、「学校は生活の場であるとともに教育の場でもあるのだから、一人ひとりの子どもの状況に合った教育保障を」「そのために養護学級を活用してその子にあった楽しい学習活動を保障し自己肯定感を育てよう」と提案したが、議論されなかった。そして「流れ(枚方の原学級主義)に流されなあかん時もある」という議論の進まない意見を後から聞くという苦い経験もした。これは一つの学校の話だが、それが国家の話になる

と大変なことだとも考えたという。

一方養担をすることで、毎日通常の学級の授業を見ることになり、よく分かったことが色々あったという。その一つは障がい児に配慮のできる担任は、その子だけでなく授業についていけない子ども、生活の不安定な子どもなどにも配慮ができること。彼女は当時を振り返りながら「なんだか原発や津波の被災者に優しい人(社会)は、老人や障がい者など社会的弱者に優しい人(社会)というのに似ていますね」と語っている。彼女は「今は極端な原学級主義ではなくなった。見方にもよるが原学級で学ぶ成果もそれなりにあった」と言う。2015年には枚方にも支援学校(養護学校)ができることになった。選択肢の一つとしてあるべき学校がやっとなので良かったと思っているようだ。近年、教育現場がますます忙しくなり、彼女が障がい児のことが気になる現状は続いている。

子ども達に「自然に優しい生活をしよう。宇宙船の地球号を守ろう」と教えてきた彼女は、原発事故の事実を目を背けず活動を始めた。最近出会った関東から一人で避難してきた若い女性が体も心も調子をくずし、12月に帰省することになった。その送別会と親の会の日時が重なった時、迷わず送別会を選んだという。自分の今の生活で何を大切にするか優先順位が明確になってきたという。趣味を楽しみたい、母親の介護もせねば、家族のために時間を取りたいとの思いがある。しかし、原発事故以降は、母親に少し我慢をしてねと思いつつながら、彼女は、反原発の取り組みに力を注ぐ毎日が続いている。

取材・文 おおた幸世

短信 料理もお話も 美味しい 昼食会

毎月一回、「昼食会」が催されます。腕自慢の方々がその腕に選りかけた品々が並びます。会場は楠葉市民センター調理室。12月は2日にあり、メニューは「ビビンバ」「チヂミ」と朝鮮を代表する庶民料理。椎茸の味付けも甘辛く、朝鮮混ぜご飯はまことに口に合いました。お腹が満たされた後は「おしゃべりタイム」。思い思いにレトーク。自分の健康のこと、つい最近行った旅先のこと、近頃巷をにぎわす「秘密保護法」や原発のこと、数組参加の子連れの子連れのヤンママ達は我が子の成長と奮戦の一コマを話してくれます。車イスで参加の方からゼロ歳児まで四世代にわたる老若男女が集います。おしゃべりは2時間ほど続きます。

お問い合わせとご予約は“ひこばえ”にお電話を。参加費は500円です。(S)



退職して早や三年目ですが、退職する前から障害のある息子・陽一のために作業所が造れたらいいなと思っていました。

その試みの一つとして、六坪ほどの畑を借り野菜の栽培を夫婦で教わってみました。初めの二年ほどは練習のつもりで気楽に栽培をして、主に土日に息子を連れて行っていました。私が退職してからは、同じく畑を借りていた友人家族と一緒に、大きな畑を借りました。美しい山間の棚田、およそ八百坪を借りることが出来ました。そこで栽培した作物は、スナックエンドウ、ソラマメ、エンドウ、十六ササゲ、ナスビ、キュウリ、トマト、ジャガイモ4品種、アンノウイモ、キャベツ、ブロッコリー、レタス、サニーレタス、シントウ、ピーマン、トウモロコシ、ネギ、タマネギ、ムラサキタマネギ、ダイコン、ニンジン、ヤーコン、クウシンサイ、ズッキーニなどでした。地主兼指導員さんにも手伝っていただいて、二家族で何とかやっていました。無農薬で有機栽培でしたので、特に春の後半から秋の初めにかけて昆虫の害に悩まされました。特に春先に植えた作物の内、ダイコンはお手上げでした。はじめはうまく育つのですが、途中から虫に新芽をさんざん食べられて枯れてしまいます。殺虫剤さえ使えば大きく育つのにとの誘惑に駆られました。

うまくいった作物もたくさんあります。特にナスビは印象に残っています。春から植えるのですが、暖かい内はニジュウヤホシテントウがいっぱい繁殖して、生まれたての小さなナスビを食べるため、ナスビの表面にやけど後のような傷が出来、成長するにつれてその傷がどんどん大きくなり、見た目が汚くてとても売り物になりません。半分あきらめていたのですが、秋に向けて剪定をし、肥料もたくさん入れると良いとの指導を受け、そのようにしました。なんと秋になると害虫のニジュウヤホシテントウがいなくなり、木もしっかりしてきて美しい大きなナスビがたわわに実って、ナスビを見に行くのが楽しみになりました。豆類はすごく強くて、ソラマメ以外はよく育って収穫するのに毎回かなりの時間がかかりました。ジャガイモ類・タマネギ類・ネギもよく育ってくれました。キャベツ、ブロッコリーは虫がつくので畝にマルチをかぶせ、作物の上にネットをして育てます。幼苗は一度だけ消毒をしています。芯を虫に食べられるとおしまいになるため

です。それでも虫はつくので、時々ピンセットや素手で葉の裏や隙間に隠れているイモムシをつまみ出して殺す必要があります。農薬を撒けば手間はかかりませんが、有機無農薬栽培では根気のいる作業です。

まだまだ不十分ですが、いろいろ経験をさせてもらって、少し作物栽培の知識が身につきました。また有機肥料は作るのに手間と時間がかかることも知りました。肥料は土地の提供者からいただいたので特に困らなかったですが、自分で作るとなるとかなりのスペースもいるので大変かなと思います。最近、不耕起栽培、苗や種だけ植えて水も肥料も一切やらないという方法もあるようですが、これは楽でいいかなと思います。でもどんな作物が出来るのか、やったことがないのでよく分かりません。

今は、二家族の予定のずれ、栽培する目的のずれ、土地代の値上げ、私の腰痛などで畑はやめています。

息子がお世話になっている通所施設「くすの木園」の保護者会の会長に今年4月から一年任期でなったので、自分の家の代わりになるケアハウス設立のための勉強会を立ち上げられたらなと思い、枚方市役所の市民活動課に相談に行き、NPO設立のための資料（かなり分厚い）をいただき、NPO設立のための二連続の初級講座を紹介していただいて、妻と私でそれぞれ一回ずつ受けに行きました。

くすの木園保護者の考え方もいろいろあって、なかなか一つにはまとまらないと思っています。しかし何人か有志が集まることが出来ればそこから少しぐらいは輪が広がるかもしれないと思います。NPO立ち上げには10人以上の社員（運営の議決権を持つ正会員）と監査1人が最低必要で、すべて保護者になる必要はないし、むしろ保護者以外の人も入ってもらう方が良いと思っています。たとえNPO設立はできたとしても、ケアホーム利用者は最低5人、最高10人までと決められていて、まず利用者が5人以上あってケアホームが作れるのか、お金の問題も大きいです。また、ヘルパーさんを集められるか、身分保障が出来るかなど、まだはじまりもしていない段階からいろいろ問題が山積していることだけは見えてきています。また、皆さんのお力をお借りする機会があるかもしれません。そのときは、どうぞよろしくお願い致します。

11月12日 議会改革調査特別委員会傍聴 委員会は、議会基本条例の制定へ向けて内容の検討を行っている。前文でも市民参加の文章が削られた。さらに、議会の基本方針を規定する箇所たたき台は(5条)、①議会及び市政について市民との情報共有を図ること、②議会活動の諸場面において市民参加を推進すること、③議員間の討議を大いに活性化し、政策提言及び政策立案を行うこと、となっていたが、会派の意見は②の削除が多数とのことで、「市民参加」を規定する②の項目が削除された。市民参加を保障することは市民に開かれ、「市民が主人公」である議会の基本だ。市民目線でおかしいことはおかしいと意見を言い続ける。

11月16日 「甲状腺がんは異常多発だ！MDS集会」で医療問題研究会の高松医師の講演を聞く 福島県の子どもの甲状腺がんは58人となった。福島県をはじめ因果関係を否定する人がいるが、原発事故による異常多発は疑いようがない。しかも福島市・二本松市・本宮市・郡山市などの中通りでも多発が見られた。国の避難指定区域外でも、安全でないことが明らかになった。子ども達の未来のためにも、避難や医療保障の権利を求め続けよう。

11月26日 「秘密保護法案」衆議院で強行採決 「何が秘密かそれが秘密」、政府が勝手に秘密を指定する。国民に知られたら都合悪いことをするから、秘密が必要になるのだ。衆議院の公聴会、自民党推薦の公述人も含めて7人全員、参議院の参考人質疑も3人がすべて反対または慎重審議を主張。にもかかわらず、強行可決することは国民を馬鹿にし、民主主義を破壊するクーデターだ。石破自民党幹事長の「単なる絶叫戦術はテロ行為と…あまり変わらない」発言は後で訂正しようとも、政府への反対意見を敵視し、テロ行為として取締りの対象にしたいとの法律の本質が見える。危険だ。11月26日から連日、枚方市駅前などで市民の会の秘密保護法反対の署名行動を行い、いただいた署名を衆議院議員、参議院議員宛にFAX送信し続けた。

12月1日・2日・4日 東京・大阪・大阪での反対デモに参加 さまざまな立場の多くの市民が集まった。反対の声は大きい。法案が成立したとしても、運動の力で法律の発動を食い止めることができる。法の廃止も取り組み可能だ。取り組みを続けよう。

12月5日 市議会本会議開始 枚方市は、来年の4月1日に中核市に移行する。移行すれば、大阪府から多くの権限が枚方市に移行する。これに関する条例制定、改訂の議案が約40件可決。中核市になって何がかわるのか。市民生活にプラスになるのか。疑問が残る。市民や議会の監視で、少しでも市民の役に立つものにさせよう。

12月6日 深夜「秘密保護法」強行成立との報。腹に力を込める。

11月20日 11月分報酬から223,880円を大阪法務局に供託



11月28日 枚方市駅前での「秘密保護法」反対の訴え

平和で豊かな枚方を市民みんなで作る会

共同代表 松本 健男 (弁護士)
 家高 憲三 (元教育長)
 黒田 薫 (平和都市ひらかたを考える市民の会)
 鈴木めぐみ (親と子のリズム遊び講師)
 おおた幸世 (枚方市平和無防備条例を実現する会)
 事務局長 手塚 隆寛 (枚方市会議員)



〒573-1197 枚方市禁野本町1-5-15-106 市民の広場“ひこばえ”

Tel&Fax 072-849-1545

毎月の配布を希望される方、または配布を希望されない方はお手数ですがご連絡ください。